



第165回定期演奏会

現代曲の神髄に挑む

2018
11/16(金)

18:00開場 18:45開演 **8/9発売**

ハイドン：交響曲第22番変ホ長調「哲学者」Hob.I:22

山本和智：女声、室内オーケストラとライブ・エレクトロニクスのための「韻律の塔」(名古屋初演)

ベートーヴェン：交響曲第7番イ長調Op.92



指揮／齊藤一郎
(当団首席客演指揮者)



ソプラノ／柳原由香



エレクトロニクス／有馬純寿

11月15日(木) 第165定期演奏会プレイベント

会場／名古屋文理大学文化フォーラム

入場無料

先着200名

●10:30～11:20「公開講座」小ホール

●12:00～13:00「公開リハーサル」大ホール

公開講座…@FM「おはクラ・サタデー」でおなじみの山本雅士が定期演奏会で取り上げる楽曲や作曲者にまつわるエピソードを紹介します。

公開リハーサル…オーケストラが曲を作り上げていくリハーサルの一部を公開します。イヤホン付きFMラジオで館内FM放送によるリハーサル内容の実況解説をお聴きいただけます。(解説をお聴きになりたい場合はイヤホン付きFMラジオをご持参下さい)

お問い合わせ／名古屋文理大学文化フォーラム ☎0587-24-5111 (稲沢市正明寺3丁目114)

ザコンサートホール 名古屋・伏見・電気文化会館

☎052-204-1133 名古屋市中区栄2-2-5 (地下鉄「伏見」駅下車、4番出口より徒歩2分)

入場料 A席4,500円 B席3,500円 C席2,500円 学生席1,000円他
※未就学児の入場不可 (座席指定の場合は各席半額)

プレイガイド

- 電子チケットぴあ ☎0570-02-9999 [Pコード103-011]
- 愛知芸術文化センタープレイガイド ☎052-972-0430

お問い合わせ・チケット取扱い

セントラル愛知交響楽団

☎052-581-3851

主催／一般社団法人セントラル愛知交響楽団 共催／中日新聞社
後援／愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・@FM
協賛／名古屋市美術館

助成／



公益財団法人アフィニス文化財団



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



クラシック音楽聴くなら

セントラル愛知交響楽団

<http://www.caso.jp>

チケットはホームページからお申込み頂けます。



©Doko Nakamura

指揮 齊藤一郎(当団首席客演指揮者)

Ichiro Saito

福井県大野市出身。東京学芸大学、及び東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。指揮を伊藤栄一、遠藤雅古、岩城宏之、若杉弘、湯浅勇治、佐渡裕、バブレ・デシュパイ、レオポルド・ハーガー、エルビン・アッツェルの各氏に師事。在学中に安宅賞受賞。1998年より文化庁新進芸術家海外研修員としてウィーンで研鑽を積む。帰国後の2000年6月～2004年3月NHK交響楽団アシスタントコンダクターを務め、この間、サヴァリッシュ、プロムシュテット、スヴェトラノフ各氏らの薫陶を受ける。

1997年大阪センチュリー交響楽団(現・日本センチュリー交響楽団)を指揮してデビュー。2002年にはN響を指揮、2003年関西フィルハーモニー管弦楽団で定期公演に初登場。以後、国内主要オーケストラに客演を重ねている。海外においては、これまでに、セゲ響(ハンガリー)、モラヴィア・フィル(チェコ)、オラディア・フィル(ルーマニア)に客演した他、スロヴァキア・フィル定期公演、パルドゥビツェ室内管弦楽団(チェコ)定期公演などに出演。2009年4月～2014年3月セントラル愛知交響楽団常任指揮者。2014年4月より同団首席客演指揮者。2014年4月より京都フィルハーモニー室内合奏団音楽監督。邦人作品への積極的な取り組みが評価され、2014年第9回名古屋音楽ペンクラブ賞を受賞。また、齊藤一郎がプログラミングならびに指揮をした2016年4月の京都フィルハーモニー室内合奏団第203回定期演奏会が第15回佐川吉男音楽奨励賞を受賞。



ソプラノ 柳原由香

Yuka Yanagihara

沖縄県立芸術大学音楽学部音楽学科声楽専攻卒業。第7回おきでんシュガーホール新人演奏会グランプリ受賞。第16回ABC新人コンサートに出演。明治安田クオリティオブライフ文化財団海外音楽研修生として、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンに留学。ドイツ・ベルリンを拠点とし、演出家ダヴィッド・マルトン、スヴェン・ホルムと共に、現代音楽オペラ、Musiktheaterでヨーロッパの劇場で活躍。ミハエル・ヴェアトミュラー、アレクサンドラ・グリカ、久保摩耶子など、国内外の現代作曲家の初演を歌う他、ベートーベン「第九」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」、ヴィヴィエ「ブカラ」のソリストとしても活動。2010年ベルリン・HAU劇場で、オフエンバッハ『ホフマン物語』のアントニア、ジュリエッタ、オリンピア、ステッラの4役を歌う。2016年エストニア・タリンのビルギッタ音楽フェスティバルにて、モーツァルトの「レクイエム」に出演。ミュンヘン・カンマーシュペーレにてベッリーニ「夢遊病の女」アミーナ役、2018年6月リヨン歌劇場のモーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ役など、着実に活躍の場を広げている。国内においても、2015年日生劇場のモーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ役、2017年京都フィルハーモニー室内合奏団45周年記念公演に於ける日本人委嘱新作初演でのソリストなどで高い評価を得ている。



©saya nishida

エレクトロニクス 有馬純寿

Sumihisa Arima

1965年生まれ。エレクトロニクスやコンピュータを用いた音響表現を中心に、現代音楽、即興演奏などジャンルを横断する活動を展開。ソリストや室内アンサンブルのメンバーとして「サントリー芸術財団サマーフェスティバル」「コンポージウム」など多くの現代音楽祭に参加し、300を超える作品の電子音響の演奏や音響技術を手がけ高い評価を得ている。第63回芸術選奨文部科学大臣新人賞芸術振興部門を受賞。2012年より国内外の現代音楽シーンで活躍する演奏家たちと現代音楽アンサンブル「東京現音計画」をスタート、その第1回公演が第13回佐治敬三賞を受賞した。2016年より読売新聞にて「音楽季評」を連載中。「A Study in helix」(2005年)、「Archipelago」(1999年)のソロCDの他、多くのCDにも参加している。現在、帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科准教授。京都市立芸術大学非常勤講師。

1月定期演奏会のご案内

10/1(月)発売

第166回定期演奏会 ～甘美な情感をたたえる旋律～

2019年1月24日(木) 18:45開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

指揮/レオシュ・スワロフスキー(当団音楽監督) サクソフォン/須川展也

シャブリエ:狂詩曲「スペイン」

ファジル・サイ:アルト・サクソフォンと管弦楽のための〈バラード〉

イペール:アルト・サクソフォンと11の楽器のための室内小協奏曲

ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ

ドビュッシー:交響詩「海」

